

大阪市立清水小学校 令和5年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】</p> <p>全市共通目標（小学校）</p> <p>【ICTの活用に関する目標を設定する】</p> <p>○本校教員の児童のICT活用を指導する能力に対する肯定的な割合を72%以上にする。</p> <p>【教職員の働き方改革に関する目標を設定する】</p> <p>○「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準2を満たす教員の割合を75.4%以上にする。</p> <p>学校の年度目標</p> <p>○デジタルドリルを週1回以上活用する割合を70%以上にする。</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を図る指標	進捗状況
<p>取組内容①【施策6－1 ICTを活用した教育の推進】</p> <p>・ICT等を活用した協働学習や個別学習の充実を図るための授業作りを行う</p> <p>指標</p> <p>・一人一台タブレット端末等を効果的に活用できる単元を発掘し、記録を残して次年度へ引き継ぐ。それにより、活用意欲が高まるようにする。</p> <p>・効果的に活用できる環境整備、指導方法の作成に取り組み、授業実践の充実を図る。</p> <p>・Teams等、双方向通信の効果的な実現に向けて、環境整備、取り組みを進める。</p>	B
<p>取組内容②【施策7－1 働き方改革の推進】</p> <p>・自己の働き方を調整して、効率よく仕事を進め、児童と向き合う時間を作る。</p> <p>指標</p> <p>・第3学年以上で1教科以上学年内交換授業を行ったり、特別支援担当との道徳の交換授業を行ったりする。</p>	B
<p>取組内容③【施策6－1 ICTを活用した教育の推進】</p> <p>・児童のタブレットを用いた学習を進め、児童がタブレットを活用できるようにする。</p> <p>指標</p> <p>・児童が週2回以上デジタルドリルを行うようにする。</p> <p>・児童に日々タブレットを持ち帰らせ、週に一回以上タブレットを用いる宿題をだす。</p>	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>① 一人一台タブレット端末の活用に関して、年々、児童、教職員ともにスキルアップがみられる。総合研究発表会での公開授業に向けて、教材開発を行う中で、より効果的な活用法を知ることができた。児童は、調べ学習や朝学習、連絡帳の確認など、日常的に活用することができた。Teamsを使った取り組みも行われ、情報や資料の共有など</p>	

にも活用された。

支援員の方や担当者が、不具合がある度に改善策を見つけ、即対応したことで、環境整備がすすめられた。その結果、効率よく授業実践に活用することができた。

双方向通信テストを実施した。ここ数年で、子どもたちのスキルも上がり、保護者の手を借りず、子ども自身が家庭で通信テストを行うことが容易になってきた。

② 道徳を中心に、交換授業に取り組んだ。しかし、他教科に関しては、時数の関係等で、時間割が組みにくいなど、なかなか交換授業として取り組みにくさを感じた。

③ 週2回以上のデジタルドリルへの取り組みは、全学級において実施された。自分のペースで自分のしたい学習を選んで取り組めるので、個にあった学習となった。

日々タブレットを持ち帰ることに关しては、学年が上がるにつれ可能となった。自己管理が難しく、低学年にとっては難しさを感じた。

来年度への改善点

- ・一人一台タブレット端末を活用した単元等の記録を残し、系統立てた指導計画を立てる。ICTに関連した教職員研修を設定したり、研修会に参加したりする機会を増やす。機械の劣化、容量の問題、ネット環境の不具合など、より快適に使用できるよう改善する。
- ・今年度は、2月に実施したが、年度初めの早い時期に行うようにする。
- ・道徳の交換授業を積極的に行い、他教科に関しては学年で相談し推進する。
- ・校内でのタブレット端末使用を快適に進めるために、日々家庭への持ち帰りを推進する。